

# 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業 共進化実現プログラム（第Ⅲフェーズ）について（案）

令和5年4月12日

# 共進化推進プログラム（第Ⅲフェーズ）に向けた論点整理①

令和5年度より最後の3年間プロジェクトが開始（15年プロジェクトの13年目）

→第Ⅰフェーズ、第Ⅱフェーズを通して関係者から以下のような意見をいただいた。

## 第Ⅲフェーズに向けた関係者からの意見

- ① これまでの共進化実現プログラムは成果こそ出ているが、必ずしも政策形成に効果や影響を与えているとは言えないのではないか。
- ② 政府が求めているEBPMの徹底について、具体的な実現手法を第Ⅲフェーズに向けて今一度検討すべき。
- ③ 行政側の潜在的なデマンドが不足している。もしくは、各課が中心に据えている政策課題とテーマで設定した課題との間に乖離があるのではないか。
- ④ 研究力低下の原因を探るといような、科学技術イノベーション政策推進の根底にあるような課題を選定すべき。
- ⑤ 行政官と研究者がより積極的にコミュニケーションできるようにすべき。

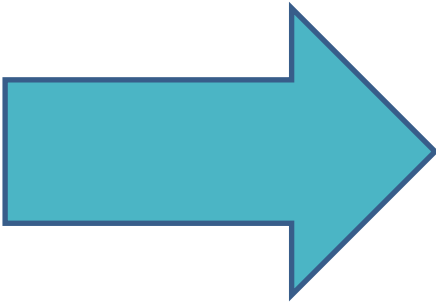
<共進化の成果について>

- ⑥ 現在各課が抱える問題や実施するプログラムに具体的提案が出来るものが良いのではないか。
- ⑦ 文科省だけでなく他省庁も交えた形で横展開できるのが望ましい。

## 【方針（案）】

- 担当課と合意の上、アウトプットが明確な政策課題を6件程度取り上げる。  
(1課題あたり750万円程度の補助を検討)
- 政策科学推進室が各プロジェクトの中心的な運営を行うとともに、担当課の積極的なコミットメントが得られるよう、適宜必要な調整を行う。
- 政策課題については、各課から提案を募集するとともに、政策科学推進室側からも適宜提案。

## 採択までのスケジュール（案）



令和5年4月	省内テーマ公募 研究者側からの逆提案募集
令和5年5月～	各課と研究者のマッチング
令和5年8月	外部有識者による審査会
令和5年10月	採択プロジェクトの実施

※具体のスケジュールは後述

# 共進化推進プログラム（第Ⅲフェーズ）の枠組み（案）

## 共進化実現プログラム

... 文科省からの提案(政策ニーズ)と政策研究者のテーマ(政策シーズ)をマッチングさせ政策課題を設定し、協働でプロジェクトを実施するプログラム（R5～R7事業）

### 【期待される効果】

行政官と研究者が協働してEBPMを実践することにより...

- 政策ニーズに適した具体的な研究成果が得られる（行政）
- エビデンス形成に際し、お互いの立ち位置や価値観の異なる相手との協働作業により行政官のスキル・リテラシーが飛躍的に向上する（行政）
- 政策形成に直接関わることにより、行政のダイナミズムへのリテラシーが産まれる（研究者）
- 相互の意思疎通を通じた政策形成プロセスは、これまでになかったチャレンジとなる（双方）

など

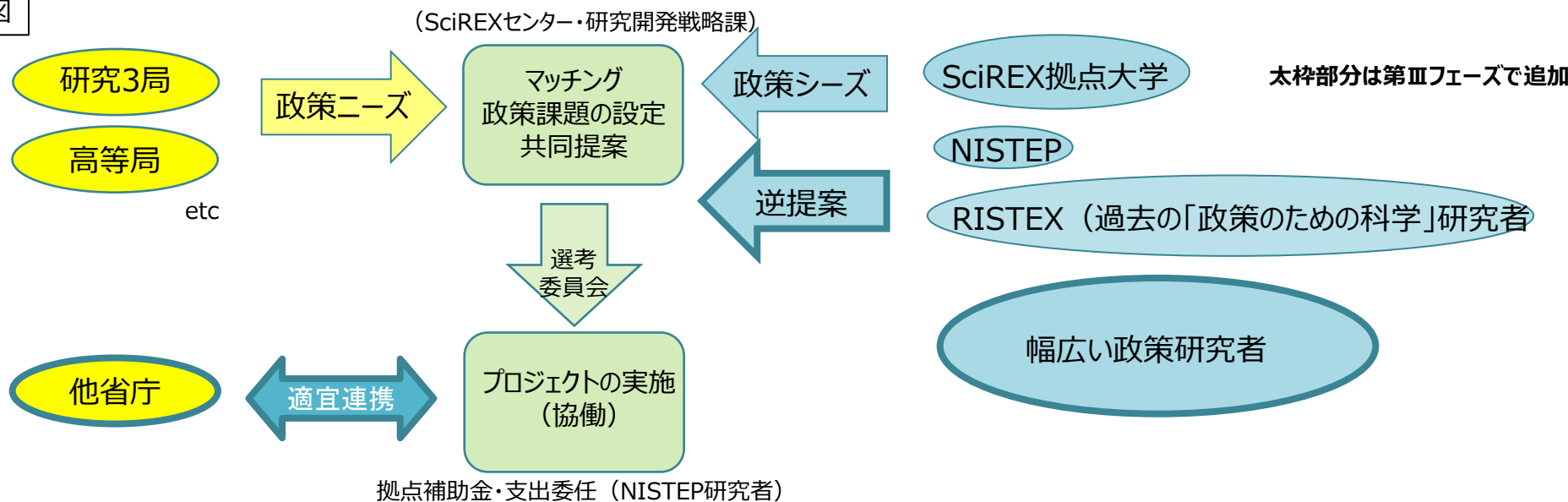
### 【第Ⅱフェーズ(R3～R4)との主な違い】

(課題設定) 重点推進領域を撤廃し、より広く柔軟に、大きな政策課題に貢献しうる研究課題を募集。

(行政側) 各採択課題に対し、政策科学推進室とSciREXセンターが積極的にプロジェクトの伴走支援を行う。また、必要に応じて他省庁とも適宜連携を図る。

(研究側) 拠点大学、NISTEP、RISTEXの研究者の参画に加え、SciREX関係機関外の幅広い政策研究者の参画も見据える。

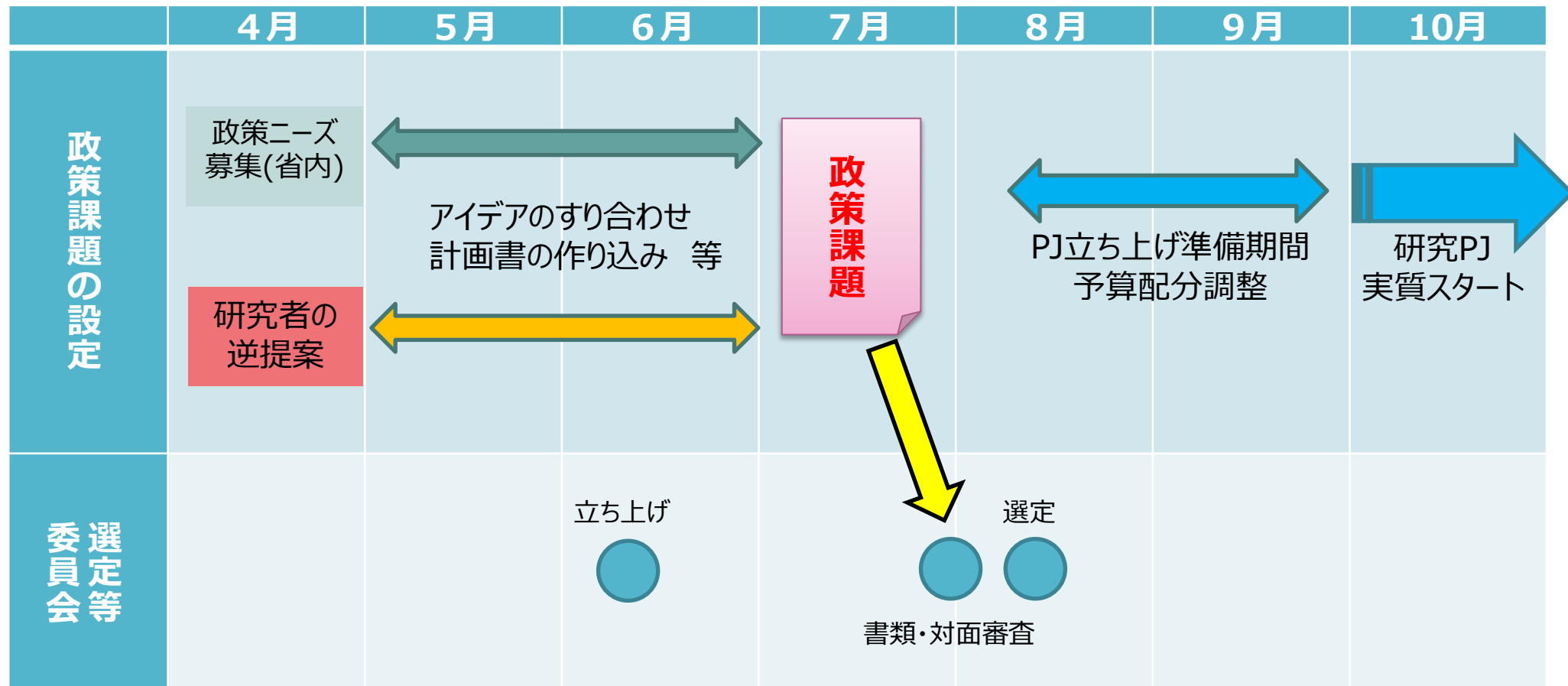
#### スキーム図



# 共進化推進プログラム（第Ⅲフェーズ）の具体的スケジュール（案）

## 【再掲】採択までのスケジュール（案）

- 令和5年4月 省内テーマ公募  
研究者側からの逆提案募集
- 令和5年5月～ 各課と研究者のマッチング
- 令和5年8月 外部有識者による審査会
- 令和5年10月～ 採択プロジェクトの実施

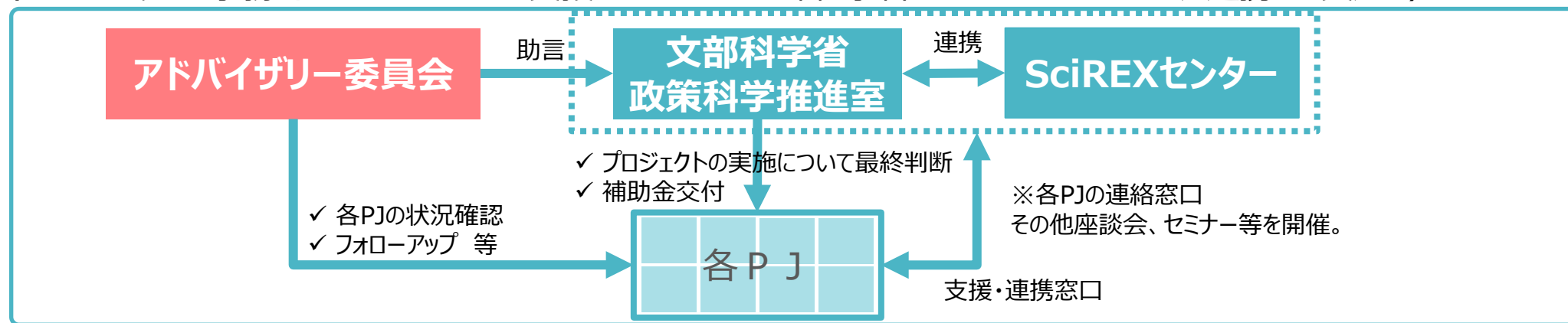


# 共進化推進プログラム（第Ⅲフェーズ）の進め方（案）

## ガバナンス構造（イメージ）

- 第Ⅱフェーズに引き続き、アドバイザー委員会にて、各PJごとに担当のアドバイザーを置き（2～3名程度）、フォローアップ等を行ってはどうか。

（フォローアップの事務局、各プロジェクトの支援については、文部科学省及びSciREXセンターが連携して実施。）



## 共進化実現プログラム（第Ⅱフェーズ）のスケジュール（イメージ）

- ✓ アドバイザーとの意見交換会等を開催して、プロジェクトの方向性に適宜ご助言をいただく。
- ✓ 行政官や研究者の座談会（仮称）等を通して、プロジェクト間での知の共有を図る。

